

# 無菌治療室改修の病院経営に対する影響

## 7対1看護の導入と維持に関する一考察

奈良県立医科大学健康政策医学講座  
西浦聡子、小川俊夫、今村知明



# 研究の背景

- 7対1看護の導入で増加した人件費は、7対1看護の入院基本料でカバーできないとの推計結果が示されている。
- 平成20年度の診療報酬の改定で看護必要度が導入され急性期など手厚い看護が必要な入院患者が多い病院に限定された。



7対1看護を導入し維持し続けるには、

- 看護の質の向上、手厚く高度な医療が提供できる看護師の雇用
- 人件費増に見合った収入増を考える方が必要

# 目的

- 自治体病院の血液内科病棟で、一般病床の無菌治療室改修における試算を行う。
- 無菌治療室改修後の病院経営に対する影響を分析する。
- 7対1看護導入と無菌治療室改修の収支の試算より、同時に導入する場合の病院経営に与える影響について考察を実施する。

# 方法

- 一般病床600床・稼働率86.6%の自治体病院モデル病院として、血液内科病棟の15床（個室7床、総室4床×2室）を無菌治療室に改修すると仮定。
- 無菌治療室改修の収益と支出（逸失利益を含み）、さらに7対1看護導入による収支を試算する。

# 結果：改修前後の収益

改修前：個室加算

$$\text{改修前収益} = \text{個室病床数} \times \text{日数} \times 1 \text{室あたり個室料金} \times \text{稼働率}$$

16,594,725円 = 7床 × 365日 × 7,500円 × 86.6%  
\* 個室1室1日あたり7,500円と仮定  
(厚生労働省調査：2008年7月1日現在7,437円より)

改修後：無菌治療室管理加算

$$\text{改修後収益} = \text{無菌治療室病床数} \times \text{日数} \times \text{無菌治療室管理加算} \times \text{稼働率}$$

142,240,500円 = 15床 × 365日 × 3,000点 × 10円 × 86.6%

# 無菌治療室改修にかかる支出

改修工事に伴う病床あたりの逸失利益

$$= \text{病床閉鎖日数} \times \text{病床単価} (46,860円^*) \times \text{稼働率}$$

		総室	個室
工事期間(日)		14	7
病床数(日)	対象病床のみ	8	7
	対象病床+周辺病床	11	18
閉鎖日数(日)	対象病床のみ	112	49
	対象病床+周辺病床	154	126
逸失利益(治療費、円)	対象病床のみ	5,248,320	2,296,140
	対象病床+周辺病床	7,223,940	5,904,360

\* 平成20年度病院経営実態調査報告より算定

\* 個室料金の逸失利益は、改修前の個室料金加算が全額対象となることから、改修前に推計した個室加算、年間で約1,660万円がその対象となった。(無菌治療室管理加算が算定されると、個室料金は算定されない。)

# 無菌治療室導入に関わる収支

$$\text{無菌治療室導入の収支} = \text{改修に伴う収益} - \text{改修に伴う支出}$$

初年度の利益：約6,500万円～7,100万円

2年目以降：年間約1億2千万円の収益（診療報酬の改定がないと仮定）

	初年度		2年目以降
	対象病床のみ閉鎖	対象病床+周辺病床の閉鎖	
収入：無菌治療室導入に伴う増収	142,240,500	142,240,500	142,240,500
費用：改修およびメンテナンス費用	46,900,000	46,900,000	200,000
逸失利益（病床閉鎖による損益）	7,544,460	13,128,300	0
逸失利益（個室料金加算）	16,594,725	16,594,725	16,594,725
収支（円）	71,201,315	65,617,475	125,445,775

# 7対1看護導入と無菌治療室への改修の収支の試算(看護師の平均給与から)

		新人看護師のみ雇用	看護師平均
1年目	7対1収支*	29,370,840	233,708,040
	無菌治療室収支**	65,617,475	
	合計	94,988,315	168,090,565
2年目	7対1収支*	29,370,840	-233,708,040
	無菌治療室収支**	125,445,775	
	合計	154,816,615	-108,262,260

\* 松浦ら 7対1看護導入の経営分析 医療情報学 2010 Vol30 の試算による

\*\* 無菌治療室への改修対象病床と周辺病床の両方を閉鎖した場合

## 考察

- 一般病床の無菌治療室への改修によって、無菌治療室加算による収益の確保が可能であると試算された。
- 7対1看護の導入は病院収益を圧迫するといわれているが、無菌治療室への改修により、その収益性の確保に貢献できると試算された。しかし、無菌治療室への改修だけでは収益の確保は充分ではなく、より一層の利益確保の方策が必要であると示唆された。
- 7対1看護導入の病院には血液疾患患者のように重症度の高い患者が集まる傾向にあり、無菌治療室へのニーズが今後高まると考えられる。
- 無菌治療室への改修は、より高度な医療の提供を可能にし、患者単価の上昇によるさらなる収益性の向上につながる可能性もある。

9

## 研究の課題

- 本研究では無菌治療室への改修と7対1看護の導入に伴い、提供するケアの内容は不変として推計を実施した。
- 改修やメンテナンスなどの費用や利益は概算である。
- 病床稼働率・個室費用・病床単価の仮定が実態に即しているか調査が必要。

